

議事録ダイジェスト版

開催日： 2016 年 4 月 14 日（木） 午前 11 時 00 分 ～午後 4 時

開催場所： 東京・築地・MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

あいさつ

本会は、2016 年度全日本エンデューロ選手権シリーズの開幕前に、規則や運営の詳細を確認する為に開する。2015 年 3 月末日で 15 年度の MFJ ライセンス会員が 26 年ぶりに増加。エンデューロとエンジョイ会員の増加が特に目立ち、全体の増加に大きく影響している。

1. 前回議事録の確認

2015 年 11 月 11 日に開催された「平成 27 年度第 2 回エンデューロ委員会」の議事録が提出され、承認された。

- ◇ 「早・遅着のペナルティ合計が 60 分以上となった場合、失格」と 2016 年度国内競技規則を改訂。
- ◇ ウィメンズクラスのクラス設定とコース設定について見直し案が提案され、JEC プロモーションより全日本ウィメンズクラスに出場した 5 選手、承認 CW に出場した 3 選手にアンケート調査を実施。全日本ウィメンズのコースと周回数設定を承認 B と同等にしたことは「適当」との意見が多かった。現状女性エンデューロライダーは、全日本ウィメンズ、CW の他にナショナルや承認 B/C に出場できる等、選択肢が多い為、現状通りの設定が適当であるとの結論となった。
- ◇ 主催者の運営統一化を図る為、2016 年度主催者向け運営マニュアルを事務局にて作成する。
- ◇ 2016 年より、全日本選手権のゼッケン管理は JEC プロモーションを窓口とする。
- ◇ ピットクレー制度の義務化は、全日本クラス（IA、IB、N、W）のみとする。
- ◇ 2016 年より、IA 登録制度を採用し、管理は JEC プロモーションを窓口とする。
- ◇ IA や IB でライセンス未更新（MFJ 競技会に参加していない）者は、欠格期間 4 年で国際→国内に自動降格する制度を適用する。
- ◇ 2016 年より、ナショナルクラスのスタート順について、指定ゼッケン取得グループとそれ以外に分ける。ナショナルクラス 2 分化ではなく、技量別に全日本のスタート順を分けることが決定した。全日本でポイントを獲得したグループが先にスタートすることで、技量差のあるナショナルクラスの円滑な競技進行を行う狙い。
- ◇ 全日本ランキング認定表彰式の対象クラスを、「IA と IB」に追加変更した。（2015 年より対応済）
- ◇ 2016 ISDE ワールドトロフィー出場有資格者宛に意思確認の発信をしたが、返信は無かった。
- ◇ 前回委員会にて委員長より退任の意向が伝えられた件について、エンデューロ委員会より、継続を再検討して頂くよう要望された。

継続審議

エンデューロ委員会組織の改革を検討が必要。委員長に業務や検討事項が集中することなく、分担制でそれぞれの役割をこなす委員会となり負担が軽減されるべき。※組織案と役割分担を、委員長と事務局で案を作成する。

2. 2016 シーズンの運営について

(1) 2016 全日本選手権シリーズ審査委員長派遣について、以下の通り報告され、了承された。

第1戦	5 月 8 日	広島 ①	広島県・テージャスランチ	石井正美
第2戦	6 月 19 日	近畿 ②	大阪府・プラザ阪下	藤田貴敏
第3戦	9 月 17、18 日	日高 ③④	北海道・日高町	石井正美
第4戦	11 月 19、20 日	SUGO⑤⑥	宮城県・スポーツランド SUGO	藤田貴敏

(2) 2016 エンデューロ主催者用運営マニュアル

前回委員会で、運営の平準化を図る目的で提案された「主催者用運営マニュアル」が、事務局から提出され、内容の確認が行われた。主催者の事務手続きに関する事項や主催者登録・開催規則に関する記述は現状でよいと思われるが、コースやルートの設定、マーカーの設置場所、タイヤリストなど競技に関連する事項が不足していることが指摘された。

(3) エンデューロ用タイヤの規則改訂

2015年12月に追加審議され、決定した以下の事項について報告された。

319 ページ “付則 24 エンデューロ技術規則”

16 エンデューロタイヤ(FIMスタンダード)

16-4 タイヤは、通常の販売店または小売店から入手できるもので、一般に入手できるタイヤマニュファクチャラーのカタログ、またはタイヤ仕様リストに掲載されていなくてはならない。

追加 但し、大会特別規則に定められた場合、例外が認められる。

(4) 2016 エンデューロ競技規則の訂正

2016 国内競技規則における記載事項の訂正を行ったことが報告された。

304 ページ “付則 23 エンデューロ競技規則 15 スタート”

◇ 15-1-1 「③2015 エリア選手権シリーズインターナショナルBクラスからの昇格者」の下に以下追加。

追加 原則として、北海道－東日本－中日本－西日本－九州の順とする。

◇ 15-1-1 ⑤として以下文章を追加。

追加 上記以外の者がインターナショナルAクラスに出場する場合、JEC プロモーションにおいて年間指定ゼッケンが指定される。

◇ 15-1-2 「インターナショナル B クラスの年間指定ゼッケン」の②として、以下追加。

追加 ②2015 全日本ナショナルクラスからの昇格者(1～8位)

◇ 15-1-5 ゼッケン番号の振り分けの訂正

訂正 インターナショナル B:51～150 番、ウィメンズ:151～200 番、ナショナル:201 番～

(5) 安全対策

前回委員会で要望された、安全対策として、MFJ 事務局より全日本選手権シリーズ各主催者へコースや観戦場所の仕切りを明確にする為のコーステープを半額支援したことが報告された。なお、各主催者・各会場の必要数などのとりまとめは、JEC プロモーションにお願いした。

(6) JEC シリーズの計測業務について

かねてより、シリーズ統一の計測業者導入に関する提案がなされているが、統一化すべきか？提案がなされ、開催地区や所持する機材の都合で、主催者ごとの考えで計測業者に委託されている為、強制的な業者の選定は、困難である。従って、現状通り、計測業者の選定は、主催者の判断に委ねることが確認された。

但し、計測業者は、トランスポンダーを使い、正確なりザルト発行実績の回数を設定するなど、信頼性を判断する基準作りが必要ではないか？また、複数の業者を選定する際の入札方式の採用等を検討すべきと意見された。さらに、新規業者が参入する場合の基準の設定もするべきとの提案がなされた。

3. 2016 ISDE について

2016年10月11日～10月16日に、スペインで開催される予定の ISDE(インターナショナルシックスデイズエンデューロ)のワールドトロフィーチームの選手選出について、前回委員会で決定された内容に則り、2015年 IA ポイント獲得者 25 名、IB ランキング上位 3 名に事務局より意思確認を行ったが、有資格者の中からは、出

場を希望する選手がいなかったことが報告された。

本会にて、今年は ISDE ワールドトロフィーチームの出場は見送られることが決定し、承認された。

4. 普及対策について

(1) ライセンス登録者数について

2016年3月31日(2015年度 MFJ ライセンスの合計数)のデータが提出された。

- ◇ 競技ライセンス全体で、15,086 枚の登録数であり、前年比 102% (前年:14,680 枚)の増加となった。
- ◇ エンジョイ会員は、3,009 枚で、前年比 126% (前年:2,374 枚)の増加となった。
- ◇ 毎年減少し続けていたライセンス登録者数が、26 年ぶりに増加へ転じた。
- ◇ エンデューロ種目は、396 枚で、前年比 134% (前年:295 枚)と飛躍的に増加し、全日本の安定的開催と 2013 年より開始されたエリアシリーズの全国展開が要因と見られ、施策通りに順調に推移している。
- ◇ 年齢別グラフでは、エンデューロ種目の年齢層の中心は 30 歳代であり、新規取得者は 10%未満。
- ◇ 中高年層がソフトに楽しめる趣向のクラスやレースを設定することにより、長く競技生活を続けてもらうことが課題。モトクロスなど、スピード系種目からの転身者の受け皿を目指すべきである。

(2) レース開催状況報告について

2015 全日本選手権シリーズ、エリア選手権シリーズの開催報告資料が提出された。

- ◇ ライセンス登録者数の増加に比例し、全日本・承認クラスを合計した全体数は、前年比 115%と増加。
- ◇ 全日本対象クラスは 126%の増加となったが、全日本ウィメンズクラスは、Nクラスや承認 CWなどに分散し 80%に減少。
- ◇ 承認クラスは、前年比 98%である、が出場台数調整で人数を制限していることが要因。
- ◇ 北海道は、承認クラスの出場は他地区よりも少なめだが、IB・Nクラスの参加台数が安定している。
- ◇ 東日本は、開催数こそ少ないが会場と日程のバランスがよく参加選手を集めやすい環境となっている。
- ◇ 西日本は、併催の承認クラスの参加数が非常に多い。全日本 2 戦が組み込まれボリュームを出している。
- ◇ 九州は、第 2 戦～第 7 戦までのエリア戦に県大会を併催し、1 度の参戦で 2 度ポイント機会を与える工夫をした。

(3) レースカレンダーと地区活動状況について

2016 エリア選手権シリーズの最終カレンダーが提出された。

- ① 九州は、2016 年は県大会を開催しない。エリアシリーズだけで全 7 戦とする。
(12/18 の大会は、通常のエリアシリーズの中の 1 戦とし、“特別昇格審議対象”はなくすこととした)
- ② 今年から、中部・近畿地区で構成される「中日本エリアシリーズ」を立ち上げ、近畿 1 戦(全日本併催)、静岡 2 戦、富山 1 戦の全 4 戦で開催される。

< 近畿大会(プラザ阪下)の安全対策について、改善が要望された >

- ③ 北海道は、9 月 17～18 日の全日本日高 2DAYS を含めた全 7 戦が開催される。
同一会場で複数回の会場は、選手がマンネリに思う可能性もあり、使用できる会場のバリエーションを増やすべく、部会内で調整を進めている。今年も昨年に続き、ルスツで MX、TR、ED 合同のオフロードスクールを開催する予定で企画している。
競技役員は、年に一度の競技会の手伝いをする為だけにライセンスを取得しており、個人負担が大きい。
- ④ 東日本は、全日本 SUGO2DAYS を含めた全 4 戦で開催され、今年も関東大会として、山梨県クロスパーク勝沼での開催が予定されている。
第 1 戦となる深山クロス(SUGO)は、前年比 124%と、参加台数が増えている。
- ⑤ 西日本は、5 月 8 日全日本広島大会(テージャスランチ)を含めた全 5 戦が開催される。
全日本第 1 戦広島大会は、中間ではあるが、昨年よりも台数は増加している。エリア戦で初めての開催と

なるスノーリゾート猫山(広島県)は、過疎地域でイベント誘致による集客には協力的である印象。

意見

◇ 競技会の会場によって、出場台数の適正を検討することも今後必要である。

(4) 査察について

決定事項

査察の流れは、以下の通り。「査察シート」は、制作中の運営マニュアルに追加する。

- ① 地区エンデューロ部会長が、該当するエリア選手権シリーズを確認する。
- ② 本部事務局で準備する「査察シート」にて評価を記入する。
- ③ 地区エンデューロ部会長より本部事務局へ「査察シート」を提出する。
- ④ 本部事務局から MFJ エンデューロ委員会へ「査察シート」を提出する。
- ⑤ エンデューロ委員会で可否の審議を行う。

(5) 審議事項 (北海道 ED 部会)

- ① 承認 B クラスと承認 C クラスの統合と排気量区分け (I/II) について
参加台数の観点から、排気量区分別にせず開催する方針について提案された。

意見

- ◇ 表彰は各クラスごとがよいのではないか。
- ◇ 出場車両の排気量に分けて表彰してほしいとのニーズもある。
- ◇ 台数が多い方がよいとの意見もある。同一レースで表彰を区分する方法も検討すべき。

決定事項

現状通りのクラス区分、排気量区分で開催する。

- ② (エリア戦) ナショナルクラス→インターナショナル B クラスへの昇格区分の見直しについて
参加台数の観点から、北海道エリア選手権シリーズの自動昇格 1~5 位を、2017 年度から改訂したい。
北海道部会の改訂案 …… 1 位~3 位で 2 位以上の成績を残した者

意見

- ◇ エリア選手権シリーズナショナルクラスは、参加台数が少ない為、実力が伴わない選手も全戦出場すると自動的に昇格してしまう。(本人が昇格を望まないことも多い)
- ◇ その他の地区も同様の意見は出ている。九州は IB 参加者が少ない為、IB 選手を増やしたいとする施策もあり、地区により状況は異なる。
- ◇ エリア選手権シリーズの昇格形態を変更すればよい。
例: 1 位を自動昇格とし、2~5 位を申請昇格として、該当する選手の意思を尊重する方法
- ◇ ロードレースで採用している「参加台数に応じたポイントスケール」に変更し、地区や格式により参加台数に差異がある場合の昇格人数を調整すればよい。
- ◇ エリアごとに昇格の人数(数字)が異なることは参加台数の違いもある為理解できるが、エリアごとに昇格システムが異なるやり方は、ルールとして得策ではない。参加者もわかりづらい。

継続審議

次回委員会にて、各エリアの N から IB への昇格人数の提案を集め、再度検討する。

5. その他

- (1) 三宅島 エンデューロレース開催報告について

昨年 11 月 14 日～15 日、MFJ 特別競技会として、9 回目となる三宅島エンデューロレースが、三宅島スポーツ振興会の主催で開催された。参加者数は 102 人で、今年も早々に定員を満ち締め切られるほどの盛況ぶりで、エンデューロライダーや島民にも浸透しているようだ。2016 年は、11 月 12 日～13 日の開催が予定されている。

<報告>

毎年、強風や雨、濃霧などの天候条件に悩まされる時期での開催ながらも、一次募集で定員が一杯となるほど定着した。コンテナの積み方を工夫して参加台数を増やす等、ビッグクルーの功績が大きく、継続して開催できた。昨年末、佐藤健二氏が他界し心配されていたが、今年からは、KBF の主催で継続されることが既に決定している。三宅島レースに参加した奥村委員からも、「天候は悪かったが、参加費以上の待遇を味わえた素晴らしい大会だった」との賛辞が述べられた。

(2) 東北復興応援ツーリング 2016 の開催について

東日本大震災から 5 年が経ち、復興途中とも言える被災地(福島県、宮城県、岩手県、青森県の沿岸部)を対象地域に、昨年に続き、2016 年 8 月 1 日～10 月 31 日の期間にツーリングイベントを MFJ で主催することが決定したことが報告された。(2016 年 6 月 1 日(水)より参加者募集を開始する。参加費は ¥2000/1 人とする。)

(3) 女性ライダー記者懇談会について

次回の開催時には、エンデューロ女性ライダーも加味してほしい。

(4) 選手会長交代について

小菅選手会長より、選手会長交代について報告され、次回後任選手会長と出席することが了承された。

以上